

(様式1)

平成28年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果 (平成29年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成28年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成29年3月

土木部長 辻 義則

項目	実施結果
1 美しい県土、楽しく便利なまちの形成 ◇高速交通ネットワークの完結促進 【部局連携】 ○中部縦貫自動車道の整備促進	[成果等] 引き続き実施します。
・永平寺大野道路については、永平寺～上志比間の工事促進を国に要請し、平成28年度内の確実な全線開通を目指します。	永平寺大野道路については、平成28年度内の確実な全線開通を岐阜県、長野県、沿線市町、県議会とともに国に強く要請しました。 本年1月に国は軟弱な地質帯の法面对策や盛土材の改良に多くの時間を要するため、平成29年夏前までに開通することを発表しました。
・大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた全線開通を国に強く要請します。	大野油坂道路については、北陸新幹線敦賀開業に合わせた平成34年度までの全線開通を岐阜県、長野県、沿線市町、県議会とともに国に強く要請しました。
・大野油坂道路の大野東～和泉間については、今年度内に用地取得を完了し、平成29年度の荒島第2トンネル(仮称)工事の着手を国に要請し、早期整備を目指します。	大野油坂道路の大野東～和泉間については、5月に用地取得が完了し、国が大野市下山地区の九頭竜川橋の橋台工事に着手しました。 また、平成29年度の荒島第2トンネル(仮称)工事の着手を国に強く要請しました。
・大野油坂道路の和泉～油坂間については、残る用地取得を進めるとともに取得が完了した区間の工事着手を国に要請し、早期整備を目指します。	大野油坂道路の和泉～油坂間については、昨年3月に川合地区の用地取得が完了し、残り6地区のうち、長野地区、大谷地区の用地取得を進めています。 また、取得が完了した区間の工事着手を国に強く要請しました。
・大野油坂道路の大野～大野東間については、平成29年度の用地取得着手に向けて、幅杭打設など用地測量の促進を国に要請し、早期整備を目指します。	大野油坂道路の大野～大野東間については、12月に国は用地幅杭打設に着手しました。 また、用地測量の促進を国に強く要請しました。

(様式1)

項目	実施結果				
<p>○若狭さとうみハイウェイの機能強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 舞鶴西～敦賀間の4車線化を国と高速道路株式会社に要請し、早期着手を目指します。 平成28年度供用予定の敦賀南スマートインターチェンジと平成29年度供用予定の三方PAスマートインターチェンジ(仮称)の整備促進を国と高速道路株式会社に要請し、早期供用を目指します。 県内外のイベントにおいて時間短縮効果などの利便性向上の情報発信を行い、若狭さとうみハイウェイの利活用促進を図ります。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>舞鶴西～敦賀間の4車線化やスマートインターチェンジの整備促進を沿線市町とともに国と高速道路株式会社に要請しました。</p> <p>敦賀南スマートインターチェンジについては、本年3月25日に高速道路株式会社が供用しました。 三方五湖スマートインターチェンジについては、高速道路株式会社と若狭町が平成29年度の供用を目指し工事を進めています。</p> <p>「若狭・三方五湖ツーデーマーチ」など県内外のイベントにおいて時間短縮効果の情報発信を行い、道路利用者に対して利活用促進の働きかけを行いました。 開通後2年目(平成27年7月～平成28年7月)の小浜インターチェンジから敦賀ジャンクション間の1日当たり平均交通量が1年目に比べ約7%増加しました。</p>				
<p>◇道路・港湾の重点整備と利用促進</p> <p>【部局連携】</p> <p>○主要道路・県境道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 県民の安全と利便性、地元や市町の協力体制なども考慮し、優先度をつけて計画的に整備を進め、永平寺大野道路の平成28年度全線開通に合わせた勝山インター線などのアクセス道路等を供用します。 (平成27年度 1箇所) <p>道路の供用箇所</p> <p style="text-align: right;">5箇所 累計6箇所</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>主要道路・県境道路の整備については、勝山インター線(勝山市鹿谷町～荒土町)など4箇所を供用しました。</p> <p>道路の供用箇所</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;"></td> <td style="text-align: right;">4箇所 累計5箇所</td> </tr> <tr> <td style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・勝山インター線 L=1.3km (勝山市鹿谷町～荒土町) 11月6日供用 ・国道157号 大野バイパス L=1.3km (大野市中保～吉) 9月29日供用 ・国道364号 永平寺インター道路 L=0.3km (永平寺町谷口) 12月19日供用 ・三国東尋坊芦原線 L=0.7km (坂井市三国町崎～梶) 3月31日供用 </td> <td></td> </tr> </table> <p>福井港丸岡インター連絡道路については、八ツ口区、長崎区の用地取得を進めています。</p> <p>福井森田丸岡線については、鉄道運輸機構が新九頭竜橋(仮称)の下部工8基中4基の整備を完了し、11月に新幹線橋梁の上部工に着手しました。 中藤島地区において、6月に寄場川、本年3月に市道の立体交差部の整備を、森田地区において、本年3月に坂井市方面に向かう芳野川橋梁の整備を完了しました。</p>		4箇所 累計5箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・勝山インター線 L=1.3km (勝山市鹿谷町～荒土町) 11月6日供用 ・国道157号 大野バイパス L=1.3km (大野市中保～吉) 9月29日供用 ・国道364号 永平寺インター道路 L=0.3km (永平寺町谷口) 12月19日供用 ・三国東尋坊芦原線 L=0.7km (坂井市三国町崎～梶) 3月31日供用 	
	4箇所 累計5箇所				
<ul style="list-style-type: none"> ・勝山インター線 L=1.3km (勝山市鹿谷町～荒土町) 11月6日供用 ・国道157号 大野バイパス L=1.3km (大野市中保～吉) 9月29日供用 ・国道364号 永平寺インター道路 L=0.3km (永平寺町谷口) 12月19日供用 ・三国東尋坊芦原線 L=0.7km (坂井市三国町崎～梶) 3月31日供用 					

(様式1)

項目	実施結果
<ul style="list-style-type: none"> ・北陸新幹線の南越駅（仮称）と国道8号を、敦賀駅と国道8号バイパスをそれぞれ結ぶアクセス道路については、整備に向け事業化の準備を進めます。 ・国道8号福井バイパスの整備については、工事促進を国に要請し、福井しあわせ元気国体までの供用を目指します。 ・国道8号敦賀市田結～南越前町大谷間バイパス等の整備については、概略ルートを検討等を国に要請し、早期着手を目指します。 ・県境道路である国道417号冠山峠道路については、岐阜県とともに工事促進を国に要請し、早期完成を目指します。 	<p>南越駅（仮称）と国道8号を、敦賀駅と国道8号バイパスをそれぞれ結ぶアクセス道路については、本年3月28日に都市計画決定を行いました。</p> <p>国道8号福井バイパスについては、早期開通を沿線市とともに国に強く要請した結果、福井しあわせ元気国体までに暫定2車線で供用することになりました。</p> <p>国道8号敦賀市田結～南越前町大谷間バイパス等の整備については、早期事業化を沿線市町とともに国に強く要請しました。</p> <p>国は、5月に概略ルートを検討等に着手し、本年3月に「特に対策が急がれる範囲」を決定しました。</p> <p>国道417号冠山峠道路については、平成34年度までの完成を岐阜県や沿線市町とともに国に強く要請しました。</p> <p>国は、岐阜県側の冠山峠第1トンネル（1.2km）において、7月に掘削を開始しました。</p>
<p>○敦賀港・福井港の機能強化と貿易拡大</p>	<p>〔成果等〕 引き続き実施します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・敦賀港鞠山南国際ターミナルの第2期工事を促進するため、新幹線工事などの建設発生土を利用した埋立工事を進めます。 ・敦賀港鞠山南地区の岸壁整備については、国と港湾利用者を含めた検討会を開催し事業計画の熟度を高め、直轄事業としての早期採択を目指します。 ・敦賀港において就航が期待される大型外国客船の安全な入出港を確保するために必要な防舷材や係船柱の整備を実施します。 ・九頭竜川からの流入土砂対策として福井港北防砂堤の工事に着手します。 	<p>ふ頭用地の埋立工事については、北陸新幹線工事の建設発生土を約15万m³投入するなど、早期完成を目指して工事を進めています。（進捗率21％）</p> <p>敦賀港鞠山南地区の岸壁整備については、検討会において鞠山南地区を含む敦賀港全体の貨物の再配置案を決定するなど、岸壁整備の事業計画の熟度を高めました。また、早期事業化を敦賀市とともに国に強く要請した結果、直轄事業として採択されました。</p> <p>敦賀港への世界最大級の大型客船の安全な入出港を確保するため、本年3月に防舷材11基と係船柱4基の整備を完了しました。</p> <p>福井港北防砂堤工事については、4月から計11回、工法および防砂堤延伸後の堆砂影響などについて地元説明を実施し、12月に着手（ブロック製作）しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>◇電車・バス・自転車の利活用拡大</p> <p>【部局連携】</p> <p>○福鉄・えち鉄の高機能化</p> <p>・えちぜん鉄道の高架化について福井しあわせ元気国体までの完成を目指し、高架橋工事を進めるとともに、仮線運行に伴い5か所の交差道路について順次通行可能となるよう整備を進めていきます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>えちぜん鉄道の高架化事業については、8月末までに5か所（東口御園通り、北通り東口線、観音町通り、大手日之出線、歩行者道路2）の交差道路を順次通行可能としました。平成30年の福井国体までの完成を目指し、引き続き、高架工事を進めていきます。</p>
<p>○自転車ネットワークの計画的整備・延伸</p> <p>・観光拠点や眺望ポイントをめぐる道路に自転車マークなどの路面標示を行い、サイクリングコースのネットワーク化を進めます。 (平成27年度 31km増 累計189km)</p> <p>サイクリングコースのネットワーク化 21km増 累計210km</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>永平寺町の九頭竜川堤防から恐竜博物館を結ぶ県道勝山丸岡線などに自転車マークなどの路面標示を行い、既存の永平寺福井自転車道とつなげました。</p> <p>サイクリングコースのネットワーク化 21km増 累計210km</p>
<p>2 原子力・エネルギーの確かな将来展望と地域振興</p> <p>◇「安全最優先」の原子力行政</p> <p>【部局連携】</p> <p>○原子力災害制圧道路等の整備促進</p> <p>・新たに舞鶴野原港高浜線（高浜町神野～難波江間）の工事に着手するとともに、佐田竹波敦賀線のトンネル（美浜町北田～乙見谷間）と音海中津海線のトンネル（高浜町音海～田ノ浦間）の掘削工事の完了を目指します。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>原子力災害制圧道路等については、11月に新たに舞鶴野原港高浜線（高浜町神野～難波江間）の工事に着手しました。佐田竹波敦賀線のトンネル（美浜町北田～乙見谷間）については、10月に、音海中津海線のトンネル（高浜町音海～田ノ浦間）については、6月に掘削工事を完了しました。</p>
<p>3 日本一の安全・安心（治安充実から治安万全へ）</p> <p>◇あらゆる災害対応を迅速第一</p> <p>【部局連携】</p> <p>○除雪対策の徹底</p> <p>・パトロール、支障木の事前伐採、国、高速道路株式会社等との情報共有のための会議の開催および現地での想定訓練など、これまでの大雪時の課題に対する除雪対策を11月までに進めます。</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>10月末までに、降雪により倒木の恐れがある支障木を確認するパトロールを実施し、92本を事前伐採しました。5月31日と10月21日の2回、国、高速道路株式会社等との情報共有のための会議を開催しました。11月10日に国道8号の先導除雪を想定した訓練を行いました。大雪警報発令時に情報共有を図る道路情報連絡室を3回設置し、各道路管理者が迅速に除雪をしたことにより、スタック車による渋滞などの交通障害は発生しませんでした。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>・交通の要所である敦賀市～越前市間の高速道路および国道において、除雪体制の充実・強化を図ります。</p> <p>・緊急医療施設周辺道路、最重点除雪路線、緊急輸送道路などについて順次消雪施設を整備します。 (平成27年度 6km増 累計349km)</p> <p>消雪施設の整備 3 km増 累計352 km</p>	<p>敦賀市～越前市間の幹線道路の除雪体制については、5月31日と9月27日の2回、国や高速道路株式会社等と検討する「豪雪時における円滑な道路交通確保検討会議フォローアップ会議」を開催しました。 各道路管理者が消雪施設の延伸や監視カメラの増設等を行いました。</p> <p>緊急医療施設周辺道路については、福井赤十字病院周辺(福井市みのり2丁目)など0.6 km、最重点除雪路線については、木ノ芽峠付近(南越前町板取)など0.4 km、緊急輸送道路については、あわら市役所周辺(あわら市市姫)など1.0 km、その他勝山恐竜橋など1.0 kmの消雪施設を整備しました。</p> <p>消雪施設の整備 3 km増 累計 352 km</p>
<p>○インフラの長寿命化対策</p> <p>・定期的な点検結果に基づき橋梁、トンネル、ダム、河川の排水機場、砂防施設、下水道施設、港湾施設などの維持・補修を行い、長寿命化対策を進めます。</p> <p>・炭素繊維大手企業との共同研究により、強くて軽い補強部材を用いた橋梁補強技術の開発を支援します。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>点検により早期に補修が必要と判断された、橋梁25橋、トンネル15箇所、ダム放流設備等3基、河川の排水機場1箇所、下水道施設1箇所、港湾の係留施設等10箇所などの維持・補修を実施しました。 7月25日と2月6日の2回、国や高速道路株式会社と県、市町で構成する道路メンテナンス会議を開催しました。また、5年に1回の近接目視による点検が義務化された橋梁やトンネル等の道路施設を点検、補修し、長寿命化対策を進めました。</p> <p>強くて軽い炭素繊維を用いた橋梁の補強技術の開発するため、7月5日をはじめ計3回、炭素繊維大手企業との研究グループ会議を開催し、補強部材の製作に向けた協議を行いました。 本年3月に製作した部材を実際に橋梁に取付け、有効性を検証するなど、研究開発を進めました。</p>
<p>○足羽川ダムの建設促進</p> <p>・足羽川ダムについては、ダム本体掘削に向けて、平成30年度までに工事用道路と仮排水路トンネルを完成するよう国に強く要請し、平成38年度の完成を目指します。</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>足羽川ダムについては、平成31年度にダム本体掘削に着手できるよう、平成30年度内にその工事用道路と仮排水路トンネルを完成させることを国に強く要請しました。 国は、事業用地の約9割を取得するとともに、工事用道路(2.9 km)の65%の整備を完了しました。また、本年3月に水海川導水トンネル工事に着手しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○河川の災害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 河内川ダムについては、本体コンクリート打設を進めるとともに小水力発電施設の工事に着手します。 吉野瀬川ダムについては、用地取得を進めるとともに、付替えの必要な県道武生米ノ線の整備を進め、事業の推進を図ります。 近年に浸水被害が発生した区間、想定氾濫区域内に家屋が集中している区間などを重点的に整備します。 (平成27年度 990m増) <p>河川の重点整備 1,200m増 累計2,190m</p> <ul style="list-style-type: none"> 迅速な住民避難につながる情報提供を行うため、洪水により甚大な浸水被害が生じるおそれのある河川に監視カメラを増設します。 (平成27年度末 累計18箇所) <p>監視カメラの設置 2箇所増 累計20箇所</p>	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>河内川ダムについては、本体コンクリート打設(258千m3)の80%を完了しました。 8月に小水力発電施設の水車と発電機の製作に着手しました。</p> <p>吉野瀬川ダムについては、事業用地の取得をほぼ完了(99%)するとともに、付替えの必要な県道武生米ノ線(4.5km)の87%の整備を完了しました。</p> <p>平成18年に浸水被害が発生した江端川や市街地部を流れる吉野瀬川などにおいて、河道掘削や護岸整備などを重点的に進めました。</p> <p>河川の重点整備 1,660m増 累計2,650m</p> <p>12月に、過去に氾濫被害があった2河川(赤根川、兵庫川)に河川監視カメラを設置しました。</p> <p>監視カメラの設置 2箇所増 累計20箇所</p>
<p>○土砂災害対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害警戒区域において土砂災害から保全する人口を増やすため、砂防堰堤や急傾斜地崩壊対策施設などの整備を進めます。 (平成27年度末 累計35,590人) <p>土砂災害から保全する人口 210人増 累計35,800人</p> <ul style="list-style-type: none"> 迅速な住民避難につなげるため、地域ごとの詳細な防災情報を提供するとともに、市町と連携し土砂災害を想定した避難訓練を継続して実施します。 防災意識の向上のため、住民を対象とした土砂災害講習会や小学生を対象とした防災出前授業を開催します。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>長渕谷川(おおい町)など3地区に砂防施設を、竹生地区(福井市)に急傾斜地崩壊対策施設を整備し、累計977地区の施設整備を完了しました。</p> <p>土砂災害から保全する人口 310人増 累計35,900人</p> <p>ホームページにおいて、地域を絞りこんで表示することにより、土砂災害の危険性を地図上で確認しやすくしました。また、高齢者等が早めに避難できるよう、土砂災害の危険性が高まる前から情報を提供するとともに、本年1月11日をはじめに計3回、高齢者等施設の管理者に対し、土砂災害からの避難に関する説明会を開催しました。 土砂災害を想定した避難訓練を福井市など15市町において実施しました。</p> <p>住民対象の土砂災害講習会を宇津尾地区(南越前町)など6地区、小学生対象の防災出前授業を大安寺小学校(福井市)など21校において開催しました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○空き家対策の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中古住宅の流通を促進するため、ふくい空き家情報バンクへの登録を促します。 (平成27年度新規登録 102戸) <p>空き家情報バンクへの登録 100戸</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>空き家所有者に対して空き家情報バンクへの登録を呼びかけるよう、全市町や宅建協会などの不動産関係3団体に対して働きかけを行うとともに、文書により協力を要請しました。県民向けの講習会や集会において、空き家情報バンクのPRを11回実施しました。</p> <p>空き家情報バンクへの登録 226戸</p>
<p>◇「安全・安心ふくい」確立プラン 【部局連携】</p> <p>○通学路や高齢者の安全確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車利用者や歩行者の安全を確保するため、市町の教育委員会や警察署と協議し、自転車安心通行帯の整備を進めます。(平成27年度 累計12km) <p>自転車安心通行帯の整備 5km増 累計17km</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>5市(福井市、坂井市、大野市、鯖江市、敦賀市)の教育委員会や警察署との協議結果に基づき、福井市のさくら通りなど7路線5kmに自転車安心通行帯を整備しました。</p> <p>自転車安心通行帯の整備 5km増 累計17km</p>
<p>4 人口減少に歯止めをかける徹底戦略</p> <p>◇日本一の「結婚・子育て応援社会」 【部局連携】</p> <p>○ふくいの住まい総合支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・UIターン者の定住や多世帯の同居・近居に必要な一戸建て住宅の購入、リフォーム工事への助成を行います。(平成27年度 65戸) <p>住宅の購入、リフォーム工事への助成 120戸</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>市町と協力して、UIターン者や多世帯同居・近居をする家族を対象に、一戸建て住宅の購入費用86戸分、リフォーム工事費用71戸分の助成を行いました。</p> <p>住宅の購入、リフォーム工事への助成 157戸</p>
<p>5 豊かな環境、すぐれた風景を次の世代に</p> <p>◇景観を県民資産に【部局連携】</p> <p>○「わがまち景観」の保全・継承</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路周辺の景観を改善するため、道路標識柱等の集約化を行うとともに、標識の撤去を進めます。 (平成27年度 14箇所) <p>道路標識柱等の集約化、標識の撤去 10箇所 累計24箇所</p>	<p>[成果等] 目標を一部達成しませんでした。</p> <p>標識の背面などの空きスペースを利用して、県道福井加賀線などにある32箇所の標識を16箇所に集約しました。国道305号などにある9箇所の標識を撤去しました。</p> <p>道路標識柱等の集約化、標識の撤去 25箇所 累計 39箇所</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>・福井しあわせ元気国体の開催や北陸新幹線の県内開業に向け、観光地や街並みなどの良好な景観づくりを推進するため、屋外広告物条例等の改正により基準に適合しなくなった広告物について、広告主や広告事業者による撤去・改修を進めます。 (平成27年度 -)</p>	<p>市町と協力し、広告主や広告業者などに対して、改正内容の周知や改善への協力依頼を行う説明会を21回開催しました。 また、景観改善が必要な足羽山周辺の関係者や大手広告業者などに対して、個別に改善への協力依頼を43回行いました。 広告主や広告事業者により、基準に適合しなくなった広告物が40件撤去、9件改修されました。</p>
<p>基準に適合しなくなった広告物の撤去・改修 140件</p>	<p>基準に適合しなくなった広告物の撤去・改修 49件</p>
<p>・福井しあわせ元気国体に向け、主要な交差点の景観改善のため、福井市の市街地において、交差点周辺の空き地を休憩場所や緑化スペースとして有効に活用する方策を取りまとめます。</p> <p>・足羽川において水辺に親しむイベント、川遊び、釣り体験などの親水活動の定着を図るとともに、史実に近い和船による毛矢の繰舟体験を実施します。(平成27年度参加者 6,060人)</p>	<p>歩行者、自転車利用者が多く、十分な滞留スペースがない福井市のまちなかの交差点において、角地の空き地を快適なたまり空間として活用する方策を取りまとめました。</p> <p>足羽川の利活用については、お花見Eボートや釣り体験教室など水辺に親しむイベントを開催し、5,900人の参加がありました。 4月～11月、春まつりや花火大会などのイベントに合わせて史実に近い和船を用いた「毛矢の繰舟体験」を実施し、1,138人の参加がありました。</p>
<p>足羽川における親水活動への参加者 6,500人</p>	<p>足羽川における親水活動への参加者 7,000人</p>
<p>・北陸新幹線等大型工事により生じる建設発生土の需給調整を行い、引き続き敦賀港鞠山南2期工事や骨材等に利用するなど、土砂採取による山の切り崩しを抑制し景観を保全します。</p> <p>・河川の浚渫や伐木を実施するとともに、産学官連携による検討会において新たな利活用策をとりまとめます。 (平成27年度浚渫土量 4万m³)</p>	<p>鉄道・運輸機構、国、県および市町をメンバーとした「建設発生土利用促進委員会」を8月19日と本年1月26日の2回開催し、北陸新幹線のトンネルなど大型工事から生じる建設発生土の需給調整を行いました。 新北陸トンネル工事の掘削土は、敦賀港鞠山南地区のふ頭用地の埋立工事に約15万m³、骨材として約12万m³活用しました。</p> <p>河川に堆積した土砂4.1万m³を浚渫し、そのうち1.8万m³を道路盛土材などに活用しました。 河川に生えている木575tを伐採し、そのうち98tを県民に提供しました。 5月23日をはじめ計3回、産学官による「河川浚渫土砂利活用促進検討会」を開催し、浚渫土砂を土質改良により堤防の補強材料等とする利活用策を整理しました。</p>
<p>河川の浚渫土量 4.0万m³</p>	<p>河川の浚渫土量 4.1万m³</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>○三里浜緑地の利活用推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近に緑豊かな自然を楽しめるよう、樹林内の下草刈りや枝打ちにより緑地内の見通しをよくするなどの環境改善を行い、地域住民等に親しまれ、利用しやすい環境づくりを進めます。 ・健康づくりのためのウォーキングや自然学習の場として自然観察会などを開催するほか、様々な活動の場として利用されるよう地域住民やスポーツ団体にPRし、自然とふれあえる活動を展開します。 ・地域の観光振興につながるよう、緑地内に海や三里浜砂丘地を眺望できる場所を整備し、「道の駅」などと連携した利活用を進めます。 	<p>[成果等] 引き続き実施します。</p> <p>緑地内の見通しをよくするため、下草刈りや枝打ちを平成29年度～31年度の3か年で行う計画を策定しました。今年度は、緑地の北側区域において、下草刈りや枝打ちなどを13ha実施しました。</p> <p>地元まちづくり協議会やテクノポート福井総合公園、道の駅みくにと協力し、7月31日に親子ふれあい自然学習会、10月23日に自然散策ウォーキングを実施し、それぞれ94名と64名の参加がありました。</p> <p>地元住民や地域のグランドゴルフ協会、マレットゴルフ協会などにパンフレットを配布し、緑地利用の呼び掛けを行いました。</p> <p>地域住民などの憩いの場所となるように緑地中央付近に海や三里浜砂丘地を眺望できる展望所や駐車場(27台)、ベンチ(4基)などを整備しました。</p> <p>道の駅みくにの花らっきよ祭の開催に合わせ、11月5日に三里浜特産物を紹介するイベントを実施し、204名の参加がありました。</p>
<p>◇低炭素のまちづくり推進</p> <p>○環境に調和した研究の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・建設技術研究センターにおいて橋梁の長寿命化のため、橋梁のコンクリート床版の劣化状況を簡易かつ安価に診断する技術を県管理の橋梁での調査に活用します。 ・道路舗装の長寿命化のため舗装や基礎地盤を簡易かつ安価に診断する技術の実証実験を県管理道路で行います。 ・農業ハウス倒壊の未然防止や効率的な除雪体制に活用するため、福井独自の降雪予測システムを完成させ、土木事務所等に情報を提供します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>橋梁のコンクリート床版のひび割れなどの劣化状況を小型計測器により簡易かつ安価に診断する技術を開発し、土木事務所等が活用するための「橋梁コンクリート床版診断マニュアル」を作成しました。</p> <p>県管理道路2箇所(福井市砂子坂町、福井市島寺町)において、小型計測器により発生させた振動の伝わり方を分析することで道路舗装および基礎地盤の損傷箇所や損傷状況を簡易かつ安価に診断する技術を確立するための実証実験を行いました。</p> <p>12月から建設技術研究センターが開発した詳細な降雪予測ができるシステムの試験運用を開始しました。</p> <p>県内63地点の時間ごとの降雪量や気温などの情報を土木事務所等に提供し、除雪体制の人員や凍結防止剤の散布時刻の判断材料としました。</p>

(様式1)

項目	実施結果
<p>6 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○100万人観光地の創出</p> <p>・「道の駅」をより魅力的な観光や地域振興の拠点とするため、スタンプラリーの実施や「道の駅」が共同で開催するイベントへの支援等を行い、利用客の拡大を図ります。 (平成27年入込者数 380万人)</p> <p>道の駅への入込客数 400万人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>道の駅自慢の逸品や周辺の観光情報などを紹介するガイドブックを作成し、9月～11月と12月～2月の2回、訪れた道の駅の数に応じて景品が当たるスタンプラリーを実施し、それぞれ228件、112件(2/10時点)の応募がありました。</p> <p>道の駅の魅力を発信し、利用客の拡大を図るため、ハピリン、各道の駅において、道の駅駅長で組織する「ふくい道駅会」が12月11日に開催した道の駅PRイベントを支援しました。</p> <p>道の駅への入込客数(平成28年見込み) 450万人</p>
<p>7 行財政構造改革</p> <p>◇150億円の「政策推進枠予算」を確保【部局連携】</p> <p>○県有地の売却・利活用</p> <p>・宅地建物取引業者間のネットワーク、インターネット公有財産売却システム等を活用し、県有地の売却や利活用を進めます。(平成27年度 4区画)</p> <p>県有地の売却 3区画 累計7区画</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>近隣の住宅施工業者、宅地建物取引業等の関係団体等へのPRや訪問活動、一般公募を行い、花乃杜ハイツの6区画を売却しました。(平成28年度歳入:28,798千円)</p> <p>県有地の売却 6区画 累計10区画</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
or 目標を達成しました。(さらに強化します)(例:数値目標を達成したが、課題が残るもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)